

# 第13回「MASPなんでも高座」

## 【発表内容概要】

2017年6月20日

氏名	尾川 宏豪(オガワ ヒロヒデ)	会社名	株式会社野村総合研究所
電話等	TEL:080-2260-8166 E-Mail:h-ogawa@nri.co.jp		
<b>【テーマ】</b> 成り行き任せにしない自分の老後 ～現代版隠居と民間版地域包括ケアの実現～			
<b>【ねらい】</b> 現在は、金融業界を通じて、下記のような仮説について検証を行っている。高齢者マーケットに関心のある事業会社との実証実験を募集している。 ○国の高齢者基本施策である地域包括ケアの達成には、高齢者の日常生活支援が不可欠である。 ○個人金融資産の過半数を占める高齢者の日常生活支援は、社会的に大きな経済効果をもたらす。 ○日常生活支援の担い手となる生活支援団体の確保育成とサポートは、超高齢社会における新たなビジネスモデルとなる。 ○生活支援団体の財政支援は、民から民の新たなマネーフローに貢献する。			
1. 超高齢社会の現状と高齢者施策 わが国は、少子・超高齢社会、人口減少社会であり、認知症社会。 高齢者問題が大きな社会問題化の一方、膨張する社会保障給付は限界で支援力が低下。 国の基本施策は地域包括ケアシステム。介護保険と成年後見が車の両輪。			
2. 日常生活支援の意義と効果 高齢者施策の出発点は、日常生活支援。その意義と効果。 自治体・大学等研究機関・民間企業の取組み。 介護保険における家事援助と保険外サービスの状況。 日常生活支援を下支えするICT機能の活用。			
3. 高齢者取引に必要な機能と生活支援団体の可能性 高齢者取引に必要なインターフェース機能。 成年後見事業の担い手となる生活支援団体の活動状況。			
4. 日常生活支援のための新たなプラットフォーム ファンドレイジングから社会的インパクト投資へ。 プラットフォーム団体JLSAの活動のご紹介。			
<b>【自己紹介】</b> ・大阪府岸和田市生まれ。埼玉育ちで都内下町在住。 ・88年、東洋信託銀行入社。主に中小企業金融の営業・審査・リスク管理等に従事。 ・06年、野村総合研究所入社。現在、成年後見事業の調査研究・事業開発に従事。			
<b>【アピールポイント】</b> ・2014年・2015年の2年間、JILS ロジスティクスシステム研究会に参加。 ・専門は、中小企業金融(ABL・電子記録債権)および高齢者問題(成年後見事業・地域包括ケア) ・ファンドレイジング・社会的インパクト投資等を通じた(地域)社会課題の解決がライフワーク			
<b>【私事】</b> ・超高齢社会の根本解決を目指して、継続を起点とする現代版隠居の仕組み作りと、活動の根拠となる団体JLSA*の育成に注力しています。* <a href="http://www.jlsa-net.or.jp/">http://www.jlsa-net.or.jp/</a>			